

中国土木水利工程学会 (CICHE)

年次総会参加報告

2005年12月8日・9日の両日、台北市および宜蘭市において「中国土木水利工程学会 (CICHE) 年次総会」が開催された。JSCEからは、三谷浩会長、高橋修国際委員会委員長らが参加した。本報告は三谷会長による参加報告である。

8日は外国人参加者に対し City Tour があり、昨秋完成した「台北市 TAIPEI 101」(台北国際金融センター)をはじめとする台北市内の施設を見学した。特に「TAIPEI 101」は101階508mで、現時点で世界一の高さを誇るビルであり、設計は台湾の著名な建築家が、また施工は邦人企業が請け負った。耐震と風対策のためにマスダンパーが88階に据え付けられているが、展望台からの帰途に見ることができ興味深い。

翌9日に宜蘭大学内の国際会議場において、CICHE 年次総会が日本をはじめとする海外の協定学協会からの来賓を迎え盛大に執り行われた。CICHE 会長は国立台湾大学 Jenn-Chuan, Chern 教授がその任に当たってこられ、日本でもよく知られている。しかしこの総会を最後に会長を辞任し、新しい会長には同じ台湾大学の Yeong-Bin Yang 教授が就任することが発表された。ちなみに新会長は Chern 会長と大学の同級生とのことである。

総会のメインイベントとして International Roundtable Forum が開催され、JSCE (日本)、KSCE (韓国) の代表者が参加した。今回のテーマは、「Past, Present and Future of Civil Engineering and Civil Engineers」と当日紹介されたが、JSCE としては事前に通告のあった「Progressing through History, Evolving to the Glory Era in Civil Engineering」に即し、わが国の近世の土木技術、事業の紹介に始まって、戦後の土木事業や関連技術の急速な発展、抱えている課題と取組み状況、さらに将来の展望についてプレゼンテーションを行った。

引続き会場からの意見交換や議論が活発に行われた。また国立台湾大学 Frank H Cheng (洪如江) 名誉教授から特別講演として「土木工程興人類文明」(How does an Engineer look at the world?) という大変意味深い特別講演がなされた。

宜蘭は台北から南東に向かって約195kmほど離れた都市であるが、この都市がある蘭陽平原は東部地域への入り口であるにもかかわらず、交通施設が未整備なため、目覚しい経済、工業発展を遂げつつある台湾にあってはまだ観光や保養地としか認識されていなかった。そこで台湾政府としては、東西を結ぶ台北・宜蘭高速道路を整備することにより、台北との交通・連携を強化して本地域の産業を発展させることを目指し、すでに完成、共用している台北からの高速道路区間に接続する北宜高速道路工事を進めている。全長31kmで、そのうち主要部分をなすのが12.9kmの「雪山トンネル」で今まさに大詰め段階である。台北・宜蘭高速道路においては5本のトンネルを建設されることになっているが、本トンネルが台湾における最長の道路トンネルであり、その完成時期が台北・宜蘭高速道路の交通開放のためのクリティカルパスとなっている。13年余りの難工事を経て2005年9月に貫通した雪山トンネルを工事中にもかかわらず、特別にわれわれには通行する許可をいただいた。台湾で最大の道路プロジェクトである雪山トンネルの現場見学を「中国土木水利工程学会 (CICHE) 年次総会」の日程に組み入れたのもむべなるかなの思いが伝わる。目下、三本の縦孔トンネルに接続するベンチレーション・インターチェンジ・ステーションの建設が進行中である。

台湾では社会資本の整備が最盛期であり、台北と高雄を結ぶ台湾高速鉄道の建設も今年は完成し、運転が始まる。工事には外国企業も多く参加し、本邦企業の方に現場をご案内をいただいた。活動に敬意を表するとともに、心からの感謝を申し上げたい。



各国代表を囲んで